



## 母校飛翔の礎 新校舎建築に力強いご支援を 美しい白陵の森に、最高の教育環境が整備されます

### 校舎建替 寄付金募集要項

本寄付金募集は、白陵会が白陵会員を対象として行います。

**目標額** 5千万円

**募 金** 1口1万円

なるべく複数口のご協力をお願いします。ただし、1口未満でもありがたくお受けします。

**募集期間** 平成18年10月1日～平成20年9月30日(2年間)

**申込方法** 同封の郵便払込取扱票によりお払い込みください。

口座番号：神戸01160-9-45040 加入者名：白陵同窓会

※領収書は郵便局の郵便払込金受領書をもってかえさせていただきますのでご了承ください。

※この寄付金は減免税の措置を受けることができます。

個人がその年に支出した寄付金の額が5千円を超える場合には、その超えた金額について、その年の課税所得金額から控除されます。

減税金額=寄付金控除額(寄付金額-5千円)

減税措置を受ける手続きは寄付された翌年の確定申告で行いますが、その際、領収書及び特定公益増進法人であることの証明書(写)が必要です。この証明書写が必要な方は郵便局払込取扱票の通信欄に証明書必要とお書き添えください。

### 校舎建替寄付金募集のお願い



会 長  
沼 田 好 道

初秋の候、いよいよご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、同窓会活動に格別のお力添えを賜り心より厚く御礼申し上げます。

また、昨年八月の総会開催にあたっては大変お世話になり誠に有り難うございました。

さて、現在、母校では基礎工事の鈍音高く、校舎建替えの大工事を進めておられます。

我々にとっては、旧校舎は大変思いつ深い建物でありましたが、ご承知のとおり手狭でかつ建築後四十年を経過し老朽化が進んでいることから、耐震安全性を確保するうえでの再整備が緊急かつ優先的に取り組まなければならぬ課題となり、学園では現状と今後の経済情勢の見通し等を勘案して慎重に検討を重ねられた結果、今やらなければ近い将来更に大変な時期に取り組まなければならぬ事態に直面するとの判断から、この度既存校舎を取り壊して校舎の全面建替えという英断を下されたと

のことであります。

言うまでもなく校舎の建替えは多額の資金を要する大事業であり、この大事業を推進するには約二十億円という巨額の事業費が必要となります。苦しい財政事情の中で経営努力を続けてこられた学園当局におかれましても大変な難題であり、外部資金の確保や経費の節減など様々な努力を行っておられますが、今日の厳しい財政状況下ではその費用の負担が重く、しかかつてまいります。そこで、同窓会としましては理事会、役員会で協議の結果、母校の更なる飛躍とより健全な発展を願う気持ちを集約して、積極的にその一翼を担うべく出来るだけの協力をしていこうとの結論に達しました。各界でご活躍されている卒業生の皆様方お一人おひとりの力強いご支援が大きな支えとなり母校の発展に必ずや寄与するものと確信いたします。会員の皆様には、幾度にもわたり誠に恐縮に存じますが、更なるご理解とご賛同をいただき、同窓会が一九となつて力を結集し、できる限りのご協力を賜りますようお願い申し上げます。今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



理事長  
三木 一 正

### 歲月、そして新しい風

この会報が、皆さんの手元へ届く頃には、少し涼しくなっているのでしょうか。今夏の甲子園、高校野球決勝戦は文字通り手に汗する興奮のドラマ、多くの人が正に「感動した」といったところですが、わが白陵野球部は去る七月十三日、高砂球場での予選一回戦で灘高相手に何と九対二で八回コールド勝ちの快挙(?)を成しとげました。丁度その日、私は淡路のウエスティンホテルに全国私学振興会連合会の全国総会で地元故に議長席にいましたが、そと回つてきたメモでコールド勝ちを知り思わずニタリとしたものでした。

ところで、会の始まる前、ホテルの方が三名ばかり交互にご挨拶に来られ「本日総支配人が出張のため失礼しておりますが、よろしく伝えてくれとこれを預かつております。」と差し出された名刺の隅に七回生と書いて「総支配人牛尾秀基」とあるではありませんか。そのせいでもないでしょうが、当日宿泊していただいた全国の方々から大変喜んでいただくことができました。ホテルといえば、中学校の修学旅行(東北、函館方面)の初日の宿泊地岩手県の花巻温泉ホテル千秋閣へ入館したところ、ホテル側から団長の大内中学部長に「先程まで当方の経営会社である取締役が会議のために来ており、お待ちしていました。旅行団の到着が遅れたため、会えずに残念でしたと伝えてくれとこれをお預かりしております」と恩師へのお土産に、五十二年卒業と書かれた名刺が添えてあり「国際興業株式会社代表取締役副社長河井一彦」とあったということを開きました。偶然の機会から耳に入ってきた白陵の卒業生諸君の各分野での大いなる活躍のニュースは誠に嬉しい限りです。と同時にそこに積み重ねた歲月を感じるのです。

諸君の母校白陵も既に齢四十三才、本年四十四年目へと入りました。お聞き及びのことと思いますが、卒業生にとつては良きにつけ悪きにつけ想い出多い校舎(高校、中学棟)を二年余りの工事期間と約二十億円の資金をかけて新築建替え中です。耐震補強か新築かと思案の揚げ句、生徒の安全を第一と判断し建替え工事に着手しました。平成二十年の初夏には新築なつた鉄筋コンクリート造五階建、一部四階建の新校舎が目見えます。この度の校舎新築建替工事は、正に先輩達が歲月をかけて創り上げた歴史の上に、新しい白陵の、より高きを志向する基盤になるものと信じています。



校長  
吉田 卓

### ご挨拶

例年ならツクツクボウシが夏の終わりを告げる頃になつても、まだ今年は今クマゼミが主役を演じています。酷暑の日々が続いています。同窓会員の皆様お元気にお過ごしでしょうか。

既にご承知のこととは思いますが、校舎建て替え工事も順調に進捗し、旧校舎の取り壊し、地鎮祭、基礎工事を終え、現在一階床部分のコンクリート打ちの最中で、廊下、教室、階段等の配置が見えてきました。

工事現場には、作業段階に応じて常に数台の重機が配置されていますが、請け負った業者によつてその重機のメーカーが異なっていることに気がつきます。M社、K社など大きなメーカー四社を数えることができます。乗用車ほど大きな需要が見込めない建設重機の分野でさえ、このように何社ものメーカーが競合して激しいシェア争いをしています。このような競争が、技術立国としての日本をつくりあげてきた原動力であると、あらためて感じました。研究・開発の成果として

の自社製品の優越性を維持し、さらに発展させるため、各社の技術者達が弛み無い努力を続けてきました。電器メーカーで、精密機器メーカーでとあらゆる分野で同様の競争がなされ、技術立国日本の基礎がつけられてきたのです。

これからの私学のあり方に関しても、全く同じことが求められています。急速に進む少子化現象の中で、多くの私学が経営基盤確立のための改革に取り組んでいます。何十年もの歴史をリセットして校名を変え、建学の精神までも現代的な方向にシフトしようとする私学も少なからず見受けられます。このような流れの中にあつて、学校の将来をしっかりと見通すためには、それぞれの学校間の差違を明確に意識し、教育内容で自校の優越性を際立たせることに全力を注ぐことが必要です。

白陵には、故三木省吾先生が礎を築き、四十余年の歴史の中で鍛えられた「建学の精神」があります。私学どうしの激しい競争の中で、この「建学の精神」でしっかりと教育をすることが、他校との差違と優越性を具体化するものであることを確信し、日々の努力を継続したいものです。

同窓会員の皆様の更なるご協力、ご支援をお願いいたします。

# 校舎新築建替工事概要

この度、同窓生が学び語り合った懐かしの高校部校舎(第一校舎)が、築後四十数年が経過し、建替時期にきていること、阪神・淡路大震災以来、建物の耐震構造について監督庁の指導が厳しくなっていることから、学校側が校舎新築建替えに踏み切られました。高校部校舎は平成十九年三月完成予定で、平成十九年四月から中学校部校舎(第二校舎)の新築建替工事が予定されています。平成二十年三月に校舎そのものが完成し、周辺工事を含めて全ての工事が終わるのが平成二十年七月と予定されています。(完成予想写真は一ページ掲載)

## 新校舎概要

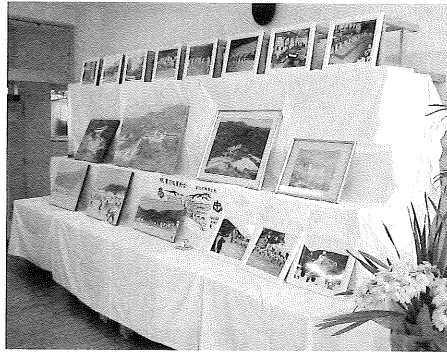
建物面積

第一期工事(第一校舎)

四、八五三㎡

第二期工事(第二校舎)

二、八八三㎡

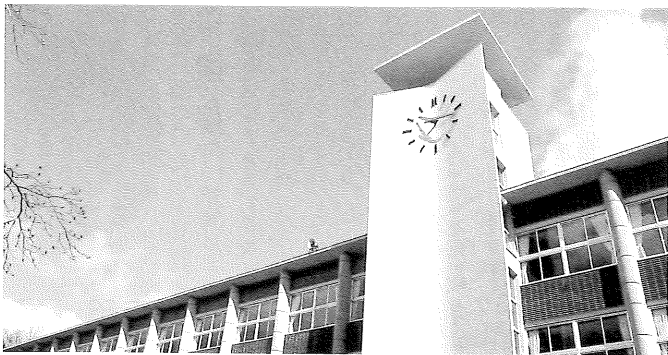


懐かしの校舎見学会風景

構造 鉄筋コンクリート造り

五階建 一部四階建

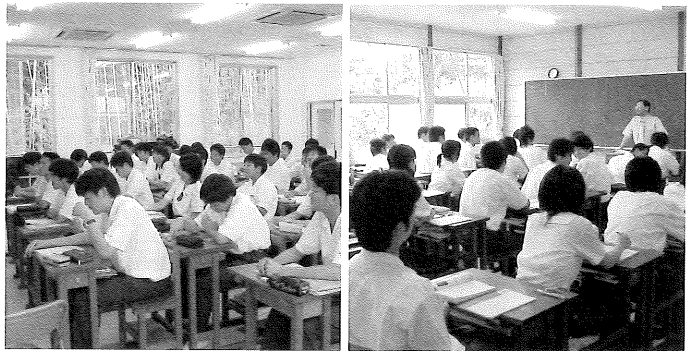
校舎解体工事前の三月十九日  
四月二日まで、学校側が卒業生に懐かしの学び舎を見学していただき、在校当時を振り返っていたために「懐かしの校舎見学会」を開催されました。その期間中、懐かしの写真、白陵グッズ、園長先生が授業で使用された英語の教科書などを取り揃えた展示室が用意されました。



解体工事前の第一校舎

来校した卒業生が校舎内を見学しながら自分達が過ごした当時の場所の面影を甦らせていました。時間の経過とともに校舎内の普通教室、特別教室等が変遷していても、卒業生にとっては忘れられない思い出がたくさん詰まった場所だと言えます。名残り惜しい気持ちを残しながら、学び舎に最後の別れをしました。

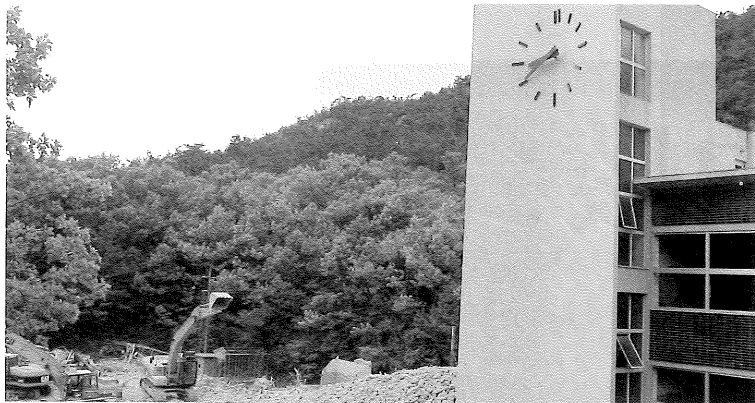
四月より解体工事が始まるため、それまでに高校三年生用の第四校舎



第四校舎(左)・プレハブ校舎(右)での授業風景

舎の新築やその他の教室の工事が行われ、それと並行して全校生徒が教室の机等の移動と特別教室の引越し作業を実施。ITルームの機器の移動には卒業生(元CPC部員)も手伝ってくれるなど、大変な作業でしたが無事に終了しました。

いよいよ入学式翌日四月十一日から、鉄柵で囲われた学び舎の解体工事が始まりました。まず、校



時計塔解体作業

舎の解体前に教室の黒板、窓枠等の取り外し作業がしばらく続いた後、重機による本格的な校舎取壊わし作業が始まりました。教職員にとつても慣れ親しんだ校舎だけに、作業を職員室で見守る先生や作業の様子を写真撮影される先生もいらつしゃいました。

作業が順調に進む中で、白陵のシンボル時計塔の解体時にはワイヤー

が重機からはずれて難行しましたが、予定より一日遅れの五月六日に完全に取り壊されました。その後も解体作業が続き、六月十四日に予定されている地鎮祭までに整地された状態にする必要があり、解体後の瓦礫の撤去作業も急ピッチで行われました。

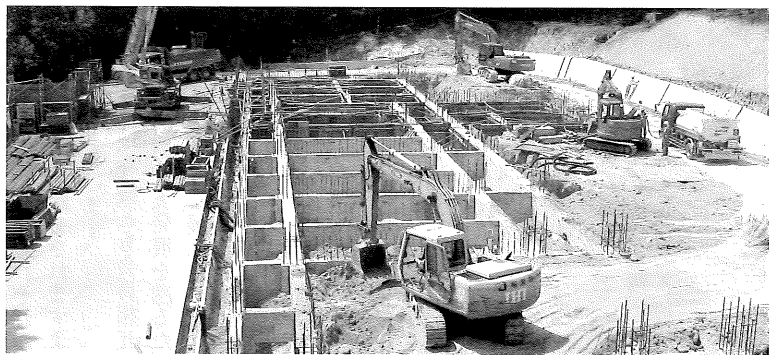


鶴電関による地固めの儀

六月十四日、整地された第一校舎跡において地鎮祭が行われました。同窓会からは沼田会長、天野副会長、上田副会長が会を代表して参列、三木理事長、吉田校長を初め学校職員と育友会、後援会の代表者、そして校舎の新築建替ということで中学生徒委員会を含めた生徒会役員二十名も参列しました。工事期間中、完成後の安全を祈願し、設計・施工主・施工の各々代表により祭壇横の土盛に鋤や鍬を入れる儀式では、施工側として三木理事長の両側に吉田校長、阿部生徒会長、松谷育友会副会長、沼田同窓会長、今井後援会副会長が並び、理事長の「エイ！エイ！エイ」の声に合わせて六名が力強く鋤で土を起こしました。

今回は大変大きな事業のため今まで以上の安全祈願に何か良い方法はないかと検討した工事施工業者が、井筒親方(元関脇逆鉾)と鶴電関を招待。祭壇の前で鶴電関が力強く四肢を踏む地固めの儀が行われました。江戸中期には地鎮祭で一族の繁栄と安全を祈り、力士に四肢を踏んでもらう風習が流行了したと言われています。

地鎮祭の後、基礎の掘り上げ部分にコンクリートの流し込み作業が始まりました。梅雨の時期になり雨が降りしきる中でも作業が行われました。また鉄筋資材の搬入も始まり、新校舎建築に向けての土台作りが着々と進んでいます。この会報が届く頃には一階天井部分まで建ち上がっているのではと思います。



新校舎基礎工事



# 2005年 白陵会総会

と  
き

平成17年8月14日(日)  
午後1時30分～午後6時

と  
ころ

姫路キャッスルホテル  
三階 鳳凰の間

## 会長挨拶

本日は、五年ぶりに2005年白陵会総会を開催いたしましたところ、大変暑い中にもかかわらず、ご遠方より多数お越しくださいまして誠に有り難うございます。平素は本会活動にご協力を賜っておりますこととあわせて、心より厚く御礼申しあげます。また、本日はお盆休みのところを、三木理事長先生、吉田校長先生をはじめ多くの先生方にご出席いただきありがとうございます。

今回の総会では、二期生で昭和住宅(株)社長の湖中副会長のご紹介で、日本を代表するデザイナーで白陵の制服のデザインも手がけられた山本寛齋先生を講師に迎えての素晴らしい講演会を準備しております。映像を交えての楽しく元氣の出るお話をさせていただけることですので、私も大変楽しみにしております。

さて、白陵会も一期生から四十年期生までとなり、会員数も六、七九六名を数える大所帯となりました。母校も、創立四十周年を経ていよいよ発展の一途を辿り、卒業生が各方面大車輪の活躍を続けておられることは、同窓会にとりましては誠に誇らしくご同慶の至りに存じます。卒業生の一人ひ

とりにとつては僅か三年ですが、その連続が学園の歴史そのものであり、母校は私たちに数々の感動を与え続け、高校時代の様々な経験は、今、私たちの大きな財産となっています。輝かしい大学合格実績により、今や全国区の名門私学に大躍進した白陵ですが、驚嘆すべきその発展の軌跡は、まさに諸先生方と生徒の日々努力の賜物であろうかと思えます。バイタリティーと情熱のかたまりであった創設者、故三木省吾先生の手によって、旧制姫路高等学校の遺髪を受け継いだ白陵という伝統ある校名は、今や広く全国に知られたところではありますが、世間の風潮が軟弱になれはなるほど、建学の精神に則り、「播州に白陵あり」の気概を持つリーダーとしての高い資質を備えた真の英才の育成に邁進され、故園長

先生が念願された「あらゆる意味での日本一の学校」にしていきたいと思えます。国内外共に世情不安定で不透明な時代ですが、白陵時代に培った高い倫理観や強い責任感、勇猛心が我々自身を正しい方向へ導き、我々卒業生一人ひとりの存在のあり方が白陵の伝統と校風を確立させてゆくのだと思えます。会員皆様方におかれましては、自己に更に磨きをかけられ、それぞれの分野で更なる活躍をされますようお祈り申しあげます。白陵会では、今後とも会員相互の親睦と母校の充実発展を図るため、精一杯の活動を展開してまいります。会員皆様方のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。総会の御挨拶とさせていただきます。

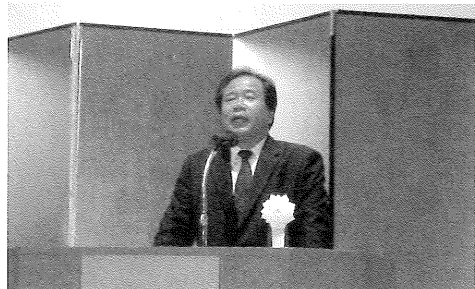
## ⇒ 総会プログラム ⇐

12:30	受付開始	
13:30	総会	業 業 業 業 業 業
	1. 開会	言 業
	2. 黙会	業 業
	3. 会長挨拶	業 業
	4. 来賓挨拶	業 業
	5. 事業報告	業 業
	6. 閉会	業 業
14:00	Kansai Yamamoto Special Performance for Hakuryo	
	講師：山本寛齋氏	
	演題：「白陵元氣プロジェクト」	
15:45	休憩	
16:00	懇親会	
	1. 開会	会 業
	2. 来賓挨拶	業 業
	3. 乾杯	業 業
	4. ビデオ上映	業 業
	5. 校歌斉唱	業 業
	6. 校歌斉唱	業 業
	7. 中締	業 業
	8. 閉会	業 業
18:00	閉会	

～白陵会総会風景～



校歌・白陵歌斉唱



沼田会長挨拶



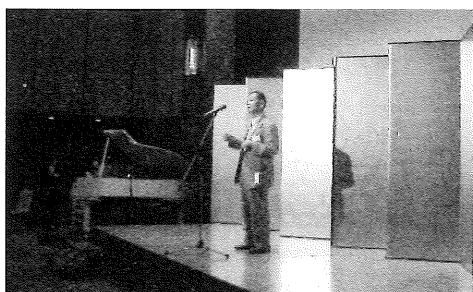
総会受付



山本寛斎氏講演「白陵元気プロジェクト」



懇親会 ～楽しい一時～



三木理事長挨拶

## 平成18年 大学入試合格者数

国公立大学				
大学名	15年	16年	17年	18年
東 京 大	23	32	21	24
京 都 大	12	24	14	22
大 阪 大	22	28	14	8
神 戸 大	16	21	21	14
北 海 道 大	3	6	4	5
東 北 大	1	2	1	
一 橋 大	3	5	4	6
筑 波 大	1	1	2	1
横 浜 国 立 大	4	2		5
名 古 屋 大	4	2	2	
岡 山 大	7	18	7	4
広 島 大	3	2	4	1
九 州 大		1		
大 阪 市 立 大	7	4		3
大 阪 府 立 大	7	9	4	6
そ の 他	46	61	48	46
合 格 者 計 (内医学部医学科)	159 (26)	218 (42)	146 (37)	145 (32)

私立大学				
大学名	15年	16年	17年	18年
早 稲 田 大	34	33	22	21
慶 應 義 塾 大	25	42	21	13
上 智 大	1	1	1	1
中 央 大	10	16	8	7
東 京 理 科 大	7	9	4	13
関 西 学 院 大	25	30	23	27
関 西 大	11	16	9	15
同 志 社 大	20	23	12	20
立 命 館 大	26	38	27	34
近 畿 大	5	4	2	7
大 阪 医 科 大	1	2	3	4
兵 庫 医 科 大		2	3	7
京 都 薬 科 大	2	2	4	6
神 戸 薬 科 大	3	6	10	7
そ の 他	44	48	47	54
合 格 者 計 (内医学部医学科)	214 (11)	272 (10)	196 (18)	236 (23)
卒 業 生 数	183	184	176	174

### 「最近の大学入試状況について」

今年(四十一回生卒業)は、新課程、いわゆる「ゆとり教育」を受けた生徒達の初めての大学入試であり、また、それ以外にも「センター試験英語リスニング導入」「一部国公立大学医学科、センター試験理科三科目必須」「国立大学後期入試廃止の動き」「薬学部六年制化」など、例年以上に受験制度がめまぐるしく変わった年の入試であった。学生人口は減少しているが、現役生のセンター試験受験者は微減で、国公立大学志向、難関大志向、医学科人気などにより、ここ数年難関国立大学や国公立医学科は大激戦の様相を呈している。

その中で、本校の進学成績は三年前の三十九回生の大躍進から、東京大学、京都大学、国公立大学医学科を合わせた合格者数も増加し、卒業生数における割合では、常に全国ベスト十五位以内に入るようになってきた。これは、白陵の卒業生の皆さんが創りあげてこられた伝統と白陵に入ってきた生徒たちの努力によるところが大きいのだが、それに加えて、十年前に行った本校独自の教育改革や、中学から女子を受け入れ、中学四クラス制の導入など次の時代を予測した理事長始め校長の先見性、さらには全職員の一一致協力した努力の賜物である。毎年行われてきたセンター試験の対策とその結果を反省し、それを次年度に引き継いでいくというチームプレーにより、

	東京大学	京都大学	国公立 医学科	合計
現役十浪人	25~38 回平均 28.5人	18.1人	18.2人	64.8人
	39~41 回平均 25.3人	20.0人	28.3人	73.7人
現役生	25~38 回平均 20.9人	8.9人	6.5人	36.2人
	39~41 回平均 20.3人	13.3人	17.0人	50.7人

白陵独自のセンター対策もほぼ出来上がり、偏差値で言うところ以前に比べて三ポイント以上上がった。

西日本の傾向である理系生徒の増加、医学科志願者の増加は、本校にも見られ、理科系の半分近くが医歯薬系志願者である。それだけに、生命倫理をしっかりとさせるために解剖実習や、命についての講演会など様々な取り組みを行った。受験前には模擬面接も行いながら生徒たちに自分の進むべき道を真剣に考える機会をつくらせている。大学合格だけを指すのではなく、その先の大学進学後の更なる成長と社会で貢献してくれることを願って、心のこもった進路指導をしたい。そして、新校舎の建設を機に、より一層創設者が夢見ておられた「日本一の学校」目指して、努力していこうと思いつつ、今日も高校三年生の論述の添削に励んでいます。(進路指導部長 大森茂樹)



## 白陵会役員名簿

役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名
会長	3	沼田好道	常任幹事(総務)	14	片山安孝	常任幹事(総務)	36	杉岡央基
副会長	2	湖中明憲	"(総務)	14	竹中邦夫	"(総務)	37	伊賀真紀子
"	3	天野泰文	"(総務)	16	田中正一	"(総務)	37	亀山信生
"	6	上田喜裕	"(総務)	18	秋田直樹	"(総務)	38	上野紘之
理事(研レ委員長)	3	神吉裕資	"(総務)	19	牛尾英樹	"(総務)	38	掘素史
"(研レ副委員長)	4	森崎晴知	"(総務)	21	河合恵介	"(総務)	39	猪股久美子
"(研レ)	5	橋本義仁	"(総務)	22	新田智弘	"(総務)	39	根木厚
"(総務)	9	村角伸一	"(総務)	22	野津康弘	"(総務)	40	赤澤剛
"(総務)	10	吉田達哉	"(広報)	23	三木健史	"(総務)	40	山本祥子
"(広報委員長)	10	下村康夫	"(総務)	23	中里寛	"(総務)	41	山本梨加
"(広報副委員長)	11	志方正彦	"(総務)	24	奥本光廣	"(総務)	41	脇田直人
"(校内幹事総)	11	宮崎陽太郎	"(総務)	24	藤原省悟	校内幹事(広報)	1	芳木健憲
"(広報)	19	尾上尚樹	"(総務)	25	多根正明	"(総務)	2	大内義博
"(総務)	20	石井秀武	"(総務)	27	山田将義	"(総務)	3	長濱憲雄
"(会計)	10	加藤雅宣	"(総務)	28	柿本晴彦	"(総務)	3	黒田洋
書記(総務)	17	岡野清和	"(総務)	28	松本守弘	"(総務)	4	原田正和
会計監査(研レ)	6	大崎章快	"(総務)	29	岡田康裕	"(総務)	6	福井孝昌
"(広報)	15	町田直隆	"(総務)	29	浜田賢太郎	"(総務)	11	小紫一貴
常任幹事(広報)	1	伊藤達也	"(総務)	30	上新貴弘	"(総務)	12	畔上昇
"(総務)	1	芝本真須美	"(総務)	31	酒井雅史	"(総務)	12	山口透
"(総務)	1	武田久美子	"(総務)	31	木下智晴	"(総務)	12	中村大吾
"(総務)	1	正井和野	"(総務)	31	村山稔	"(総務)	14	久保博彦
"(総務)	4	岸本和男	"(総務)	32	酒井勇人	"(総務)	15	村上幸生
"(総務)	5	塩崎育男	"(総務)	32	小澤有紀子	"(広報)	15	西善弘
"(総務)	7	萩本義郎	"(総務)	33	藤井拓郎	顧問(理事長)		三木一正
"(総務)	8	山戸敏彦	"(総務)	33	北尾由美子	顧問(校長)		吉田卓
"(総務)	8	黒川仁	"(総務)	34	八尾晋典	顧問(教頭)	2	川副義文
"(総務)	9	鄭幸男	"(総務)	34	牧野琢丸	"(前会長)	1	遠山寛
"(研レ)	12	吉野太司	"(総務)	35	石川美帆	"(前会長)	1	黒坂康夫
"(総務)	13	水田堅	"(総務)	35	阪本覚	"(前会長)	1	黒川芳一
"(広報)	13	矢野善人	"(総務)	36	内田理恵			

第88回

## 全国高校野球兵庫県大会

7月1日、全国高校野球兵庫県大会抽選会場にて、まるで一回戦から東洋大姫路と神港学園が当たったかのようなどよめきが起こった。わが白陵高校と灘高校の対戦が決まったのだ。

そして7月13日、2点を先行したものの、選手には硬さを感じられ、なかなか追加点を上げることができない。一方守りでは、ランナーを背負いながら、我慢のピッチングに徹したのは五回生磯野幸信氏の長男仁也君であった。そして8回、一気に打線が爆発し、9対1でコールド勝ちを収めた。

(白陵高校野球部OB会)



白陵	1	0	1	0	0	0	0	7	9
灘	0	0	0	0	0	0	0	1	1

(8回コールドゲーム)

# 白陵会News

## 平成17年度 収支決算報告書

平成17年4月1日～平成18年3月31日 単位/円

収入の部	予算額	決算額	差異
前年度繰越金	13,341,809	13,341,809	0
会費収入	3,825,000	3,776,000	49,000
終身会費	2,625,000	2,610,000	15,000
臨時会費	0	0	0
總會費	1,200,000	1,166,000	34,000
会費外収入	101,000	462,588	△361,588
名簿収入	0	254,520	△254,520
広告収入	0	0	0
利息収入	1,000	3,068	△2,068
雑収入	100,000	185,000	△85,000
寄付金	0	20,000	△20,000
總會積立金繰入収入	1,000,000	1,000,000	0
合計	18,267,809	18,580,397	△312,588

## 平成17年度 会務報告

年月日	内容	年月日	内容
17.5.2	総会準備委員会	17.8.14	白陵会総会
17.6.18	広報委員会	17.9.10	白陵運動会
17.6.25	定例役員会	17.10.8	総会準備委員会
17.7.23	理事会	17.11.26	定例役員会

支出の部	予算額	決算額	差異
事務費支出	190,000	106,168	83,832
消耗品費	30,000	21,000	9,000
印刷費	50,000	0	50,000
通信費	100,000	78,670	21,330
支払手数料	5,000	6,210	△1,210
雑費	5,000	288	4,712
会議費支出	450,000	302,088	147,912
理事会費	150,000	93,000	57,000
役員会費	200,000	179,744	20,256
委員会費	100,000	29,344	70,656
事業費支出	3,360,000	3,231,205	128,795
総会費	2,000,000	1,902,239	97,761
名簿発行費	0	0	0
会報発行費	700,000	697,277	2,723
ホームページ作成費	210,000	210,000	0
卒業記念品費	350,000	288,666	61,334
慶弔費	100,000	133,023	△33,023
備品費支出	0	0	0
〇日会活動助成金	150,000	150,000	0
渉外費支出	50,000	50,000	0
予備費支出	500,000	0	500,000
小計	4,700,000	3,839,461	860,539
總會積立金	250,000	0	250,000
次年度繰越金	13,317,809	14,740,936	△1,423,127
合計	18,267,809	18,580,397	△312,588



## 白陵生 国際交流

### オーストラリアからの訪問

平成十八年二月十九日 木曜日。高砂市の姉妹都市オーストラリアラトローブ市から中学生・コーチ・ラトローブ市職員三十三名が本校を訪問。外国からの訪問者ということで、吉田校長先生、川副教頭先生、大内中学部長、そして英語の木村先生が出迎えられ、全員で記念写真撮影を行った後、白陵会館ホールで吉田校長先生より歓迎の挨拶。その言葉を木村先生が英語で中学生達に伝達しました。その後、中一の数学の授業参観を行いました。

続いて、記念棟見学後、柔道の授業では白陵生といっしょに柔道の基本動作等を行い、多少ぎこちない部分もありましたが、柔道を通じてお互いにコミュニケーションを図ることができたのではないかと思います。その後、二班に分かれて中一生による「サウンドオブミュージック」の芝居見学、合同合唱、中三の一クラスと交歓会を実施。昼食は中一の一クラスと合同で、お好み焼きを作りました。材料を切つて焼く作業を楽しみながら、食事会も大変盛り上がりました。

すべてのプログラムが終了し、オーストラリアの中学生達は大変満足した様子で白陵を後にしました。

### 退職教職員紹介

長田進一先生(社会)

平成12年4月～平成16年3月 6年間

曾谷紀之先生(理科)

平成16年4月～平成18年3月 2年間

### 白陵会物故者

十六期生 橘 啓市氏  
平成十八年一月 逝去

三十一期生 安岡章博氏  
平成十八年六月 逝去

塩飽八久先生(国語)  
昭和五十二年四月  
平成三年三月 逝去

昭和五十二年四月  
平成十八年八月 逝去

長谷川 毅先生(社会)  
昭和五十年四月  
平成五十二年三月 逝去

心よりご冥福をお祈りします。

### 編集後記

今号は校舎建替への寄付金募集のお願いがメインですが、昨年の総会の様子もご紹介していますので、総会への御理解を深めていただければと思います。

今年の夏は暑い日が続きましたが、帰省時に久しぶりに旧友と白陵時代を懐かしみながら酒を酌み交わした方も多かったのではないのでしょうか。やっぱり青春時代の懐かしい思い出はつらかったことも楽しかったことも鮮明に覚えているものです。耐震もさることながら、裏山の崖崩れも心配した旧校舎がその役割を終えて新しく生まれ変わります。時あたかも首相交代、地元兵庫ではのじぎく国体開催の年です。我が国、我が県、我が母校の明るい未来を願わずにはいられません。次世代を担う在校生諸君、伝統に裏付けされた新しい息吹を新校舎に吹き込み、学問と修身に励み自分を磨いてください。(広報委員長)